

レアメタルニュース

●アルム出版社

東京都千代田区岩本町 3-8-8
〒101-0032 ☎(03)5825-7665
FAX(03)6478-8204
e-mail info@raremetalnews.co.jp
購読料年間 88,000円
(消費税 8,000円)

No.3074 2024年(令和6年)6月8日(毎月1, 8, 16, 24日発行)

・THE RARE METAL NEWS(昭和35年8月3日 第三種郵便物認可)

NIC Resources 元AMJ・西野氏が代表取締役社長に就任

グローバルな視点で資源確保・安定供給の実現目指す

タングステン・モリブデン化合物など触媒原料を製造・販売する日本無機化学工業(NIC)は、23年11月にレアメタル原料の調達、販売などを目的とした新会社・NIC Resourcesを設立。同社の代表取締役社長には、今年4月にレアメタル専門商社・アドバンストマテリアルジャパン(AMJ)から移籍した西野元樹氏が就任した。西野氏は1997年に蝶理に入社し、タングステンやチタンなどのレアメタル取引に従事。2004年にはAMJの立上げに参加し、シンガポール駐在などを経て、2016年から営業本部長を務めた。西野氏は社長就任にあたり「NICグループだが、取引は国内外を問わない。資源確保に尽力し、需要家の安定調達に貢献する」と意欲を示す。当面は自身が専門とするタングステン精鉱の調達やタングステン酸化物の加工販売にくわえ、タングステン・モリブデンの廃触媒、超硬工具スクラップのリサイクルから出るコバルトなどを取扱うが、今後は優秀な人材を獲得、育成し顧客の要望に応じて幅広くレアメタルを扱う予定だ。西野社長に社長就任の経緯や新会社の業務内容、今後の展望について語ってもらった。

もう一度現場に出て資源確保で日本や業界に貢献

——NIC Resourcesの社長就任の経緯について教えてください。



NIC Resources
西野元樹社長

私は新卒で入社した蝶理時代から、長らくタングステン精鉱や中間原料、スクラップなどを扱い、世界の鉱山や製錬メーカーなどを回ってきた。その間、海外鉱山への設備供給と精鉱取引とを絡めたウィンウィン関係での精鉱調達スキームの構築や、エネルギー・金属鉱物資源機構(JOGMEC)の海外地質調査の活用、また国内外で発生したスクラップの委託加工の実施など現場で日本の資源確保に従事してきた。

ここ数年は現場から離れることが多かったが、今年で50歳を迎えるにあたり、人生の集大成として、もう一度現場に出て資源確保に取組み、日本や世界のレアメタル業界に貢献したいとの思いから、NIC Resourcesへの入社を決意した。

NICのみならず国内外の需要家に原料を供給

——会社の業務内容、扱う原料について教えてください。

当社はNICの触媒原料の販路拡大やリサイクル事業に用

今週のニュース

Co	中国の1~4月輸入は地金5割減も中間原料が倍増	2
Sb	金属相場は\$2万を超え過去最高値の更新続く	2
	24年の半導体はAI急成長で16%増え25年も12.5%増	3
	レアメタルの24年1~4月の輸入通関実績①	4~7
Mg	金属相場は需要回復で\$2,630~2,670と\$80~90高	8
In	6月建値は6.6~7万円/kgと2~2.3万円の急騰	8

いる廃触媒の回収なども行っていくが、メインはレアメタル原料の調達、販売にある。顧客はNICに限らず、国内外の需要家と分け隔てなく取引をしていく方針だ。

取扱う原料について、まずは私の専門とするタングステンとなるが、川上の精鉱から中間原料、川下の超硬工具のスクラップまで幅広く扱う。中でも精鉱の新規ソース開拓とスクラップ回収に注力したい。スペインやオーストラリアなどの鉱山では新規プロジェクトが開始されており、それらの精鉱を確保し、精鉱あるいは海外で委託加工した中間原料を国内外の需要家に届けたいと考えている。

また、昨今ニーズが拡大しているスクラップリサイクルについても回収先へのファイナンス支援などを行い、回収量を増やしていきたい。地政学リスクや社会情勢の変化がサプライチェーンに与える影響は大きく、需要家にとって供給ソースの多様化は極めて重要だ。精鉱確保およびスクラップ回収量増加のため、リスクを恐れず果敢に挑戦したい。

Moは廃触媒の回収、Coは超硬工具向けに再資源化

モリブデンについては、石油化学プラントなどからの廃触媒の回収に注力したい。超硬工具のスクラップからはタングステン、コバルトを回収し、中間原料に加工して販売をする。コバルトについては、電池材料向けだけでなく、再びバインダー材として粉末まで加工し、超硬工具業界での再資源化、循環型社会の構築に貢献していきたい。

幅広いレアメタルを取扱いメリットあるスキームを提案

——今後の展望、課題についてどのようにお考えですか。

世界中の精鉱やスクラップを集めて、それを委託加工することでよりニーズの高い原料が手に入り、国内外の需要家の安定供給に繋がる。品質、価格面も含めてメリットあるスキームを提案するなど、NIC Resourcesにしかできない機能を業界に提示していきたい。

当面は私が取扱った原料を主体に業務を進めていくが、今後は他のレアメタルの取扱いも進めていきたい。だがそれには、優秀な人材の確保、育成が不可欠だ。各トレーダーが最大限能力を発揮できる体制を整え、また海外トレーダーのように、自身で稼いだ利益がそのまま収入に繋

(P.2へ続く)

中国のコバルト輸入 1~4月は5.9万tで75%増

DRC 鉱山の拡張・増産続き中間原料が大幅に拡大

中国のコバルト原料の今年1~4月の輸入量（純分換算）は、中国海関実績によると、5.9万tで前年同期比75%増と大幅に拡大した。品目別輸入量（マテリアル量）をみると、湿式処理を経た中間原料のほとんどは、コンゴ民主共和国（DRC）の粗水酸化コバルトとみられ、21.5万t（純分換算5.8万t）で同88%の大幅増。DRCでは、主要鉱山の拡張に比べ、銅価格の高騰により採掘量が急速に拡大。副産物として産出されるコバルトの大量供給に繋がっている。コバルトの世界供給はコバルト協会（CI）の発表によると、23年に初めて20万tを超え、そのうち8割近くをDRCが占めている。最大生産者・洛陽欒川モリブデン業（CMOC）のおう盛な生産が続いており、今後も中国に大量の中間原料が出荷されることで供給過剰が続く、コバルト相場の長期低迷が懸念されている。中間原料の今年1~4月の輸入単価は4.8ドル/kgで同30%の値下がりとなった。

地金は日本24%減、加34%減、単価は3割安と低迷

一方、地金の今年1~4月の輸入量は849tで同48%減少した。中間原料の大幅増により、中国国内での地金生産量が拡大し、輸入が縮小したとみられている。輸入単価は国際相場の低迷を受け27.8ドル/kg（lb換算で12.6ドル）で同25%値下がりした。

国別輸入量では、電池に使用しやすいブリケットのカナダ品が474tで同34%減少。カナダ品は、アメリカが経済制裁を続けるキューバ産の原料を用いるため、西側諸国から敬遠され、主に中国で販売される。日本品はスーパーアロイ（超合金）の添加材や特殊鋼向けに使用されるカット・カソードとみられ、325tで同24%減少した。ロシア品は22年が56tにとどまったものの、23年では437tと調達が活発化したが、今年の実績がない状態が続いている。

鉱石輸入量は中間原料の増大で18年から縮小続く

鉱石（精鉱）の輸入量は、ほぼ全量DRC品が占め、127t（純分換算9t）で同99%減と大幅に縮小した。DRC精鉱は紛争鉱物の混入のほか、児童労働などの懸念も強いとみられている。一方、同政府から正規に許可された中間原料などは原産地証明が容易なため、製錬会社の調達意欲が高まる。中国を含め世界の製錬会社は、主要企業が参加するRMI（Responsible Minerals Initiative）などから「責任のある製錬所」としての認定取得を進めてきた。ヨーロッパ（P.1より続く）

がるような給与体制の実現を目指している。優秀な人材にはやりがいのある条件を提示するつもりだ。

選挙出馬時から抱く資源の安定確保を新会社で果たす

——最後に新会社にかかる意気込みをお聞かせください。

私が事務所設立に携わったのは、今回で3回目となる。1回目は2012年の衆院選出馬時の選挙事務所設立、2回目が2013年のAMJのシンガポール法人の立上げだ。

私が衆院選に立候補した理由は、2010年の尖閣諸島問題

アンチモン 金属相場は\$2万を突破し最高値更新続く

金属アンチモンの国際相場は5月中旬に17,500ドル/tを付け、13年ぶりに過去最高値を更新したが（既報・5月24日号）、以降も騰勢が衰えず、5月下旬には20,000ドルを突破し、足元では22,350ドルとなっている。金属や酸化物の主産地、中国・湖南省で5月から実施されていた環境査察は終了したとみられ、徐々に生産が再開しているものの、鉱石のタイト感は解消されず供給懸念が相場上昇に拍車をかけている。一方で、業界関係者によると、「今も注文すれば購入できる状態であり、従来通りの取引量であれば供給は問題ない」という。相場急騰により、早めの在庫確保に動く需要家がいるものの、現時点では大きな混乱は起きておらず、引き続き実需に基づいた注文を呼びかけているという。足元の相場も上げ幅が狭まってきており、今後相場は調整に転じる可能性が高い。「投機目的やパニック買いなどで急騰したものの、本来の実力値は15,000ドル前後」（業界関係者）との見方もあり、相場急落も懸念されている。

やアメリカの最終需要家はサプライチェーン全体で原産地証明を求めているため、製錬所は認定取得によって販売面で有利になりやすい。

中国のコバルト原料の輸入推移（t。カッコ内は単価・USD/kg）

	2021	2022	2023	前年比	2024	前年同
	（%）（1~4月）期比（%）					
●鉱石（精鉱含む）（HS:2605.00.00）						
コンゴ民主共和国	19,018	26,279	16,634	-37	127	-99
合計（その他含む）	19,081	26,298	16,823	-36	127	-99
純分換算	1,336	1,841	1,178	-36	9	-99
	(4.9)	(4.9)	(2.4)	(-52)	(1.8)	(+16)
●湿式処理を経た中間原料（HS:8105.20.10）						
コンゴ民主共和国	298,538	344,994	372,143	+8	212,137	+90
ロシア	808	248	7,545	+2,940	2,699	+32
合計（その他含む）	303,483	346,208	381,138	+10	214,872	+88
純分換算	81,940	93,476	102,907	+10	58,015	+88
	(14.1)	(15.4)	(6.1)	(-60)	(4.8)	(-30)
●地金（HS:8105.20.20）						
日本	1,059	199	826	+315	325	-24
カナダ	1,629	1,235	2,030	+64	474	-34
ロシア	268	56	437	+678	-	-
オーストラリア	1,605	712	175	-75	-	-
マダガスカル	70	237	178	-25	48	+1
モロッコ	456	-	30	-	-	-
合計（その他含む）	6,426	2,732	3,731	+37	849	-48
	(39.1)	(63.8)	(33.5)	(-48)	(27.8)	(-25)
純分合計	89,703	98,049	107,816	+10	58,874	+75

（注）純分換算はマテリアル量を基に本紙推定（中国海関実績）

に端を発した中国のレアアース・レアメタルの実質的な禁輸措置にある。当時、日本の資源戦略に強い危機感を持ち、国政の舞台で資源確保に取組みたいとの思いから出馬を決意した。残念ながら落選という憂き目に遭い、事務所も畳むことになってしまったが、この時の思いは今も全く変わっていない。今回3回目のチャンレンジとなるが、日本のみならず、世界のためにも資源確保に尽力し、選挙で果たせなかった思いを新会社で果たしていきたいと考えている。